

情報開示の項目

設置者に関する情報

①設置者の名称及び主たる事務所の所在地並びに連絡先
宮崎県
〒880-8501 宮崎県宮崎市橘通東二丁目10番1号

②法人の代表者氏名
宮崎県知事 河野 俊嗣

③福祉系高等学校以外の実施事業
割愛

④財務諸表（設置者が法人の場合）
割愛

福祉系高等学校に関する情報

①名称、住所及び連絡先
宮崎県立日南振徳高等学校全日制課程福祉科
〒887-2532 宮崎県日南市大字板敷410番地
TEL 0987-25-1107

②福祉系高等学校等の校長の氏名
川井田 和人

③開設年月日
平成21（2009）年4月1日

④学則等
次項より

宮崎県立日南振徳高等学校 学校規則

1 設置目的 教育基本法、学校教育法及び建学の精神に基づき、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達及び進路に応じて、高度な普通教育及び専門教育を施すことを目的とする。
また、一人ひとりの個性の伸長と学力の向上を図り、現代社会に求められる有為な人材を育成することを目的とする。

2 名称 宮崎県立日南振徳高等学校

3 位置 〒889-2532 宮崎県日南市大字板敷410 (TEL 0987-25-1107)

4 課程及び修業年限 課程：全日制課程 修業年限：3ヵ年

5 設置学科及び定員

教科「福祉」に関する学科	福祉科	(40名)	
教科「農業」に関する学科	地域農業科	(40名)	
教科「工業」に関する学科	機械科	(40名)	電気科 (40名)
教科「商業」に関する学科	商業科	(40名)	経営情報科 (40名)

1 学年定員合計 6クラス 240名

6 養成課程及び履修方法

- (1) 介護福祉士国家試験受験資格取得のため、「社会福祉士介護福祉士学校指定規則」第八条第一号（別表第五）に定める養成課程を置くこととする。
- (2) 生徒は教育課程の定めるところにより、規定された科目をすべて履修（必修）し、修得しなければならない。
- (3) 前項の科目と単位数は次のとおりとする。（単位数は52単位：授業時間数は1820時間）

	科目名	単位数	授業時間数
福祉	社会福祉基礎	4単位	140時間
	介護福祉基礎	5単位	175時間
	コミュニケーション技術	2単位	70時間
	生活支援技術	9単位	315時間
	介護過程	4単位	140時間
	介護総合演習	3単位	105時間
	介護実習（臨地実習）	13単位	455時間
	こころとからだの理解	8単位	280時間
公民	現代社会	2単位	70時間
家庭	家庭基礎	2単位	70時間
	総 数	52単位	1820時間

※ 入学後3ヵ年の教育課程表・・・別表

7 学年、学期及び教育活動を行わない日

- (1) 学期 学年を次の3学期に分ける。
第一学期 4月 1日から 8月24日まで
第二学期 8月25日から12月31日まで
第三学期 1月 1日から 3月31日まで
- (2) 休業日 休業日は、国民の祝日に関する法律に規定する休日、日曜日、及び土曜日のほか、次のとおりとする。
- ①春季休業日 4月 1日から 4月 7日まで (7日間)
 - ②夏季休業日 7月18日から 8月24日まで (38日間)
 - ③冬季休業日 12月23日から翌年1月 6日まで (15日間)
 - ④学年末休業日 3月25日から 3月31日まで (7日間)
 - ⑤その他の休業日

- 8 入学時期 学年の初めから30日以内とする。ただし、校長は、特別の必要があり、かつ、教育上支障がないと認めたときは、学年の途中においても、学期の区分に従い、入学を許可することができる。

- 9 入学資格 入学することのできる者は、中学校若しくはこれに準ずる学校を卒業した者若しくは中等学校の前期課程を修了した者又は施行規則第63条の規定により、これと同等以上の学力があると認められた者とする。
(宮崎県立高等学校管理運営規則第16条)

- 10 入学者の選考 入学者の選抜に当たっては、宮崎県高等学校入学選抜検査実施要項に則って実施し、選考委員会で審議し、校長が決裁する。

- 11 入学手続き 入学選抜により合格した者は、誓約書及び住民票の抄本に入学金を添え、校長の指定した期日までに、校長に提出しなければならない。
(宮崎県立高等学校管理運営規則第19条)
入学式の日は4月10日とするが、校長は学校行事等の都合でこれを変更することができる。

12 退学、休学、復学、卒業

- (1) 卒業認定 卒業認定は、校長が、当該高等学校所定の全課程を修了したと認めた者について、これを行う。

(2) 休学願と許可

- ①病気その他やむを得ない理由により休学しようとする生徒は、保護者と連署した休学願を校長に提出し、その許可を得なければならない。
- ②前項に規定する休学の期間は、一月以上一年以内とする。ただし、特例の事情のある場合には、その期間を通算して二年まで延長することができる。
- ③校長は①の規定により休学を許可した場合において、一月を経過しないうちにその理由が消滅したと認められるときは、休学の許可を取り消すことができる。

(宮崎県立学校管理運営規則第40条)

- (3) 復学 休学中の生徒が復学しようとするときは、保護者と連署した復学願を校長に提出し、その許可を受けなければならない。

(宮崎県立学校管理運営規則第42条)

- (4) 退学 退学しようとする生徒は、保護者と連署した退学願を校長に提出し、その許可を受けなければならない。

(宮崎県立学校管理運営規則第42条)

- 13 **学習の評価** 生徒の成績評価は、担当教員の評価及び意見並びにその他の資料に基づき、学習指導要領に示されている各教科の目標を基準として、校長が行う。
(宮崎県立高等学校管理運営規則第27号)

14 **入学検定料、入学料、授業料、実習費等**

入学検定料	2 2 0 0 円
入学料	5 6 5 0 円
授業料	9 8 0 0 円
実習料	4 0 0 0 0 円

- 15 **教職員の組織** 本校には、地教行法第31条1項に基づき、校長、教頭、事務長、教諭をおく。その他、養護教諭、実習助手、事務主査、主任主事等をおく。
なお、福祉科の専門教育に携わる教員は、社会福祉士養成学校指定規則第8条の規定を満たすよう有資格教諭4名をおく。

16 **懲戒**

- ①校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、生徒に懲戒を加えることができる。
ただし、体罰を加えることはできない。
- ②前項の懲戒を加えるに当たっては、生徒の意見の聴取や心身の発達に応ずる等教育上必要な配慮をしなければならない。
- ③懲戒のうち、退学、停学及び訓告の処分は、校長がこれを行う。

養成課程に関する情報

①養成課程の教育課程表

平成21年度入学生教育課程表（福祉科）

	教科	科目	標準単位	1年	2年	3年	合計
普通 教科	国語	国語表現Ⅰ	2				
		国語総合	4	4			4
		現代文	4		2	2	4
	地理歴史	世界史A	2			2	2
		地理A	2	2			2
	公民	現代社会	2		2		2
	数学	数学Ⅰ	3	3			3
		数学Ⅱ	4		3		3
		数学A	2			2	2
	理科	理科総合A	2	2			2
		理科総合B	2				
		化学Ⅰ	3				
		生物Ⅰ	3		2	2	4
	保健体育	体育	7～8	2	2	3	7
		保健（こころとからだの理解で1単位を代替）	2			1	1
	芸術	音楽Ⅰ	2	2△			2△
		美術Ⅰ	2	2△			2△
		書道Ⅰ	2	2△			2△
	外国語	オーラルコミュニケーションⅠ	2		2		2
		英語Ⅰ	3	3			3
		英語Ⅱ	4				
家庭	家庭基礎	2			2	2	
単位小計				18	13	14	45
専門 教科	福祉	社会福祉基礎	4	2	2		4
		介護福祉基礎	5	2	3		5
		コミュニケーション技術	2		2		2
		生活支援技術	9	2	3	4	9
		介護過程	4			4	4
		介護総合演習	3	1	1	2	4
		介護実習（臨地実習）	13	3	5	5	13
		こころとからだの理解	8	2	2	4	8
		福祉情報活用	2	2			2
専門科目の単位数計				14	18	19	51
総合制選択科目					2	2	4
特別活動	ホームルーム活動			1	1	1	3
総合的な学習の時間				1			1
履修単位数総計				34	34	36	104

※「こころとからだの理解」により「保健」（1単位）を代替する。

②定員

40名

③入学までの流れ

宮崎県教育委員会HPをご覧ください。

なお、本校に関する資料は

宮崎県立日南振徳高等学校全日制課程福祉科

〒887-2532 宮崎県日南市大字板敷410番地

TEL 0987-25-1107

④費用

生徒1人あたりの費用

費用	第1学年	第2学年	第3学年	摘要
入学検定料	2,200			PTA、後援会費、生徒会費 23,640
入学金	5,650			
授業料	0	0	0	教材費 40,000
実習費	40,000	35,000	35,000	修学旅行費等 77,700
施設維持費	0	0	0	その他 26,984
※その他諸費	90,624	168,324	98,624	
合計	138,474	203,324	133,624	

※その他諸費については、摘要欄参照。

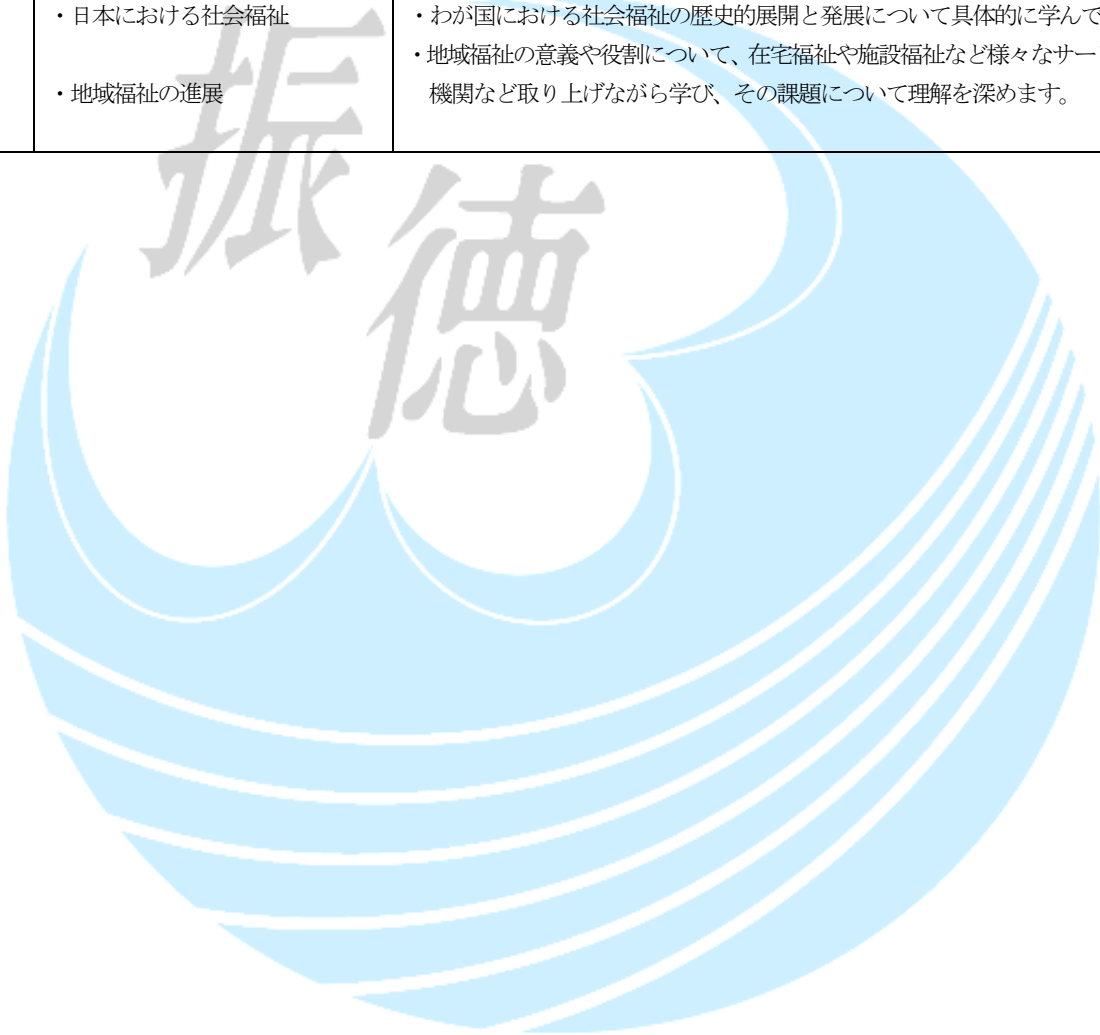
⑤科目別シラバス

科目名	社会福祉基礎	学 年	1 年	使用 する 教材	【教科書】新・介護福祉士養成講座 「人間の理解」
		単位数	2		【副教材】 介護福祉士用語辞典

学習の目標	1 社会福祉に関する基礎的な知識を身に付け理解を深めます。 2 現代社会における社会福祉の意義や役割について理解を深めます。 3 社会福祉の向上を図る能力と態度を身に付け理解を深めます。	
評価の観点	① 関心・意欲・態度	社会福祉に対する幅広い視野と福祉観を持ち、社会福祉の向上を図る能力と意欲的に取り組む姿勢を身に付けようとしている。
	② 思考・判断	社会福祉に関する課題を主体的に解決するために思考し、適切に判断する能力を身に付けている。
	③ 技能・表現	社会福祉に関する基礎的・基本的な知識や技術、それを表現する力を身に付けている。
	④ 知識・理解	社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、社会福祉の意義や役割を理解している。
評価方法	学習状況観察、ワークシート・ノート、研究・発表・定期考査・単元テストの結果等で総合的に判断して評価します。	
学習の方法	○毎時間の授業では、はじめに必ず今日のポイントを示しますので、積極的に学習に参加しましょう。 ○授業時間は板書したことを、ノートにきちんと書いて確認をしていきましょう。また、難しい語句は介護福祉用語辞典を使って調べましょう。 ○わからないことや疑問点は、後回しにしないで、その場で解決していくようにしましょう。	

学期	項目	学習のねらい
1 学期	1 社会福祉の理念と意義 ・生活と福祉 ・社会福祉の理念 ・人間の尊厳と自立	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭生活の機能や概要、人間生活と社会とのかかわりについて学びます。 ・少子高齢化の進行と介護の社会化の関連について理解を深めます。 ・日本国憲法が規定している基本的人権、幸福追求権、生存権などについて学び、福祉の理念を自立生活支援の視点から考えます。 ・社会福祉の理念と国民生活との関連について具体的事例を通して理解を深めます。 ・人間の理解として、人間の尊厳と自立支援の必要性について、権利擁護の視点に立って学習します。 ・介護における尊厳保持と自立支援について理解し、現場での倫理的課題に対応する能力を身に付けるための基礎を学びます。
2 学期	2 人間関係と コミュニケーション ・人間関係の形成 ・コミュニケーションの基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・対人援助に必要な人間の理解について学び、援助対象者を捉える能力を身に付けます。 ・人間関係を構築するための技法について学びます。 ・対人関係形成のためのコミュニケーションの持つ意義や役割について理解し、そのうえでコミュニケーションを促す環境について学びます。 ・コミュニケーションの本質やその効果的な援助について取り上げ、言語コミュニ

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉援助活動の概要 	<p>ケーションと非言語コミュニケーションについて理解します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションの基礎的な技法と実際を学び、傾聴や共感の態度を身に付けます。 ・社会福祉援助活動の持つ意義や役割について理解します。 ・社会福祉援助技術である個別的な援助、集団及び家族への援助並びに地域を基盤とした援助については、具体的な事例を通して理解します。
3 学期	<p>3 社会福祉思想の流れと福祉社会への展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国における社会福祉 ・日本における社会福祉 ・地域福祉の進展 	<ul style="list-style-type: none"> ・欧米における社会福祉の歴史的発展について学習し、福祉国家形成について理解を深めます。 ・わが国における社会福祉の歴史的展開と発展について具体的に学んでいきます。 ・地域福祉の意義や役割について、在宅福祉や施設福祉など様々なサービスや関係機関など取り上げながら学び、その課題について理解を深めます。



科目名	介護福祉基礎	学 年	1年	使用する 教材	【教科書】 新・介護福祉士養成講座 「介護の基本Ⅰ」
		単位数	2		【副教材】

学習の目標	介護を必要とする人の尊厳の保持や自立支援など介護の意義と役割を理解し、介護を適切に行う能力と態度を身につけます。	
評価の観点	① 関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 提出物を期限内に出している。 積極的に授業・実習に取り組む姿勢をもっている。 分からない内容についてはそのままにせず、自ら進んで質問をしたり、調べるなど、解決しようとする態度を身につけている。
	② 思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> 自立の考え方、ノーマライゼーション、ICFの考え方、自己決定、生活の質の向上について思考を深め、自立生活を支援する援助方法について考えることができる。
	③ 技能・表現	<ul style="list-style-type: none"> 適切な介護のあり方に則った介護・コミュニケーションが行える。
	④ 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> 介護の意義と役割について理解し、自立生活支援のために必要な知識を身につけている。社会福祉に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、社会福祉の意義や役割を理解している。
評価方法	学習状況観察、ワークシート・ノート、研究・発表・定期考査・単元テストの結果等で総合的に判断して評価します。	
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> 「介護」とは誰のために、何のためにする仕事なのか、授業で学んでいきます。初めて聞く専門的な用語が多く出てきますので、教科書・用語辞典でわからないことは調べましょう。 授業に集中して取り組み、その時間に学習したことは復習をして確実に身につけていきましょう。 プリントには板書内容だけでなく、追加説明の内容、介護福祉士国家試験でのポイント等も記入し、後から見ても分かりやすいようにまとめましょう。 	

学期	項目	学習のねらい
1 学期	1 介護の意義と役割 (1) 尊厳を支える介護 <ul style="list-style-type: none"> 尊厳を支えることの意味 QOLの考え方 ノーマライゼーションの実現 ICFの考え方 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノーマライゼーションの考え方、利用者主体の考え方、QOLの考え方を理解した上で、尊厳を保持するための介護とは何かを学びます。 ○サービス利用者の個別化、自立支援の考え方、自己決定などについて、具体的展開を通して学び、自立生活の支援とは何かを理解します。
	(2) 自立に向けた介護 <ul style="list-style-type: none"> 利用者に合わせた生活支援 自立に向けた支援とは 介護の専門性 	
2 学期	2 介護の担い手 (1) 介護従事者を取り巻く状況 <ul style="list-style-type: none"> 介護問題の背景と介護福祉士制度 求められる介護福祉士像 社会福祉士及び介護福祉士法 	<ul style="list-style-type: none"> ○介護を取り巻く社会的状況の変化と対応、国民の求める介護従事者の在り方について学びます。 ○介護に関する専門的な知識と技術を持つ、介護福祉士の仕事について理解します。
	(2) 介護従事者の役割 <ul style="list-style-type: none"> 専門職能団体がもつ役割と機 	

	能	
3学期	<p>(3) 介護従事者の倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護実践における倫理 ・日本介護福祉士会の倫理綱領 <p>(4) 介護における連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携 ・地域連携 	<p>○プライバシー保護、基本的な権利の尊重など、介護従事者に必要な倫理を学びます。</p> <p>○保健・医療・福祉と連携した介護の在り方について、その必要性や意義を学びます。また、介護に関する社会資源や介護と地域社会との関わりについても理解を深めます。</p>



科目名	生活支援技術	学 年	1 年	使用 する 教材	【教科書】 新・介護福祉士養成講座 「生活支援技術Ⅰ」
		単位数	2		【副教材】

学習の目標	自立を尊重した生活を支援するための介護の役割を理解し、基礎的な介護の知識と技術を習得します。様々な介護場面において適切かつ安全に支援できる能力と態度を育てます。	
評価の観点	① 関心・意欲・態度	高齢者や障害者への介護活動等を通して、社会福祉の向上を図る能力と意欲的に取り組む姿勢を身に付けようとしている。
	② 思考・判断	高齢者や障害者への介護活動等にかんする課題を主体的に解決するために考え、適切に判断する能力を身に付けている。
	③ 技能・表現	高齢者や障害者への介護活動等に関する基礎的・基本的な知識や技術を表現する力を身に付けている。
	④ 知識・理解	高齢者や障害者への介護活動等に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、社会福祉の意義や役割を理解している。
評価方法	学習状況観察、ワークシート・ノート、研究・発表・定期考査・単元テストの結果等で総合的に判断して評価します。	
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 毎時間の授業では、はじめに必ず今日のポイントを示しますので、積極的に学習に参加しましょう。 ○ 授業時間は集中して取り組みましょう。介護技術は実際に身体を使って身に付けていきます。繰り返し何回も練習しましょう。 ○ 新しく習ったことは、その都度、きちんと理解していきましょう。 	

学期	項目	学習のねらい
1 学期	1 生活支援の理解 <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活の理解 ・ 生活支援の考え方 ・ 他の職種の役割と協働 	<ul style="list-style-type: none"> ○ サービス利用者の生活や個別性、尊厳を踏まえた生活の自立について学びます。 ○ 国際機能分類の視点に基づいたサービス利用者に対するアセスメントの重要性及び主体的に生活できる支援の在り方について学びます。 ○ 介護に関するチームアプローチ、様々な施設・事業所及び主な職種の役割や業務内容などを学びます。
2 学期	2 自立に向けた生活支援技術 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本となる介護技術 ・ 居住環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○ サービス利用者の自立生活に向け、各種メディア教材の活用やグループ演習により、日常生活における具体的な介護場面を想定し、サービス利用者の心身の状態や状況に応じた介護の方法を身につけます。
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身じたくの介護 ・ 移動 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 介護に必要な理論に裏づけされた技術や方法を適切に判断し、安全で快適に過ごすための技術を身につけます。

科目名	介護総合演習	学 年	1 年	使用 する 教材	【教科書】新・介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」 中央法規出版株式会社
		単位数	(1単位)		【副教材】

学習の目標	介護演習や事例研究などの学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに課題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てます。	
評価の観点	① 関心・意欲・態度	実習目標を理解し、高齢者や障害者への介護活動等を通して、社会福祉の向上を図る能力と意欲的に取り組む姿勢を身に付けようとしている。
	② 思考・判断	高齢者や障害者への介護活動等にかんする課題を主体的に解決するために考え、適切に判断する能力を身に付けている。
	③ 技能・表現	高齢者や障害者への介護活動等に関する基礎的・基本的な知識や技術を表現する力を身に付けている。
	④ 知識・理解	高齢者や障害者への介護活動等に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、社会福祉の意義や役割を理解している。
評価方法	学習状況観察、介護演習、事例研究などを通して総合的に判断して評価します。	
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業に積極的に取り組み、知識と技術を身につけましょう。 ○ 授業の内容は、毎時間きちんと確認をしていきましょう。また、わからないことや疑問点は、後回しにしないで、その場で解決していくようにしましょう。 ○ 事例研究や調査など実践的な学習に積極的に取り組みましょう。 	

学期	項目	学習のねらい
1 学期	(1) 介護総合演習で学ぶこと ①介護総合演習の位置づけ ②介護総合演習の目的	・実習前・実習中・実習後の一連の流れの中で介護に必要な理論に裏づけされた基本的な技術や方法を学びます。
	(2) 介護実習事前学習 ①介護実習の意義と目的 ②介護実習の種類 ③実習前の学びと実習後の学び	・介護実習の意義と目的を理解し、きちんとした目標をもちます。 ・実習前→実習中→実習後の流れを理解し、それぞれの実習時期におけるポイントを押さえます。 ・「介護技術」と「介護総合演習」の関連を図りながら介護に関する基礎的な知識や技術を身に付けます。
	(3) 介護実習前後の流れ ①事前学習の内容と方法 ②実習体験の評価と整理の仕方	・現場実習の意義や目的について理解し、実際に福祉施設で体験します。 ・実習終了後は各グループで発表会を行います
2 学期	(4) 介護実習事後学習	・実習 I の現場における介護実習を体験します。
	(5) 実習報告会	・身体障害者・知的障害者・精神障害者の日常生活における基本的な介護について学びます。
	(6) 介護実習事後学習	・介護に関する体験的な学習を多様な介護の場において実践し、考察します。
3 学期	(7) 実習報告会	・実習終了後は各グループで発表会を行います。
	(8) 実習・事業 I における事後学習	・実習 I の現場における介護実習の体験を分析、反省を行い次年度の実習へつなぎます。

科目名	介護実習	学 年	1 年	使用 する 教材	【教科書】新・介護福祉士養成講座 「介護総合演習・介護実習」 中央法規出版株式会社
		単位数	介護実習（3単位）		【副教材】

学習の目標	1 介護に関する体験的な学習を多様な場において行い、介護に関する基礎的な知識と技術を身に付けます。 2 介護従事者としての役割を理解し、適切かつ安全な介護ができる実践的な能力と態度を身に付けます。	
評価の観点	① 関心・意欲・態度	高齢者や障害者への介護活動等を通して、社会福祉の向上を図る能力と意欲的に取り組む姿勢を身に付けようとしている。
	② 思考・判断	高齢者や障害者への介護活動等にかんする課題を主体的に解決するために考え、適切に判断する能力を身に付けている。
	③ 技能・表現	高齢者や障害者への介護活動等に関する基礎的・基本的な知識や技術を表現する力を身に付けている。
	④ 知識・理解	高齢者や障害者への介護活動等に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、社会福祉の意義や役割を理解している。
評価方法	学習状況観察、実習記録・レポート、実技テスト、定期テスト・小テストの結果等で総合的に判断して評価します。	
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業に積極的に取り組み、知識と技術を身につけましょう。 ○ 授業の内容は、毎時間きちんと確認をしていきましょう。また、わからないことや疑問点は、後回しにしないで、その場で解決していくようにしましょう。 ○ 介護技術は繰り返し練習して身に付けましょう。 ○ 社会福祉施設等における高齢者や障害者の介護実習には積極的に取り組みましょう。 	

学期	項目	学習のねらい
1 学期	(1) 多様な介護の場における実習 ア、介護技術の実践 イ、コミュニケーションの実践 ○8月に5日間の実習	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な介護の場における実習を通して、利用者やその家族とコミュニケーションを図り、サービス利用者の状況を理解します。
2 学期		
3 学期	ウ、他職種協働及びチームケアの理解 (2) 個別ケアのための継続した実習 ア、個別的な介護技術の実践 ○1月に10日間の実習	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な介護の場における実習を通して、利用者やその家族とコミュニケーションを図り、サービス利用者の状況を理解します。 ・食事介助・衣服の着脱・清潔・排泄の介護など基礎的・基本的な介護技術を実践します。 ・さまざまな暮らしの場における一人ひとりの利用者に応じた生活の支援の方法について理解します。 ・実習Ⅰの現場における介護実習を体験し、その分析、反省を行い次年度の実習へつなぎます。

科目名	こころとからだの理解	学 年	1年	使用する教材	【教科書】	中央法規 出版
		単位数	2		【副教材】	こころとからだのしくみ

学習の目標	こころとからだの理解では、自立生活を支援するために必要なこころとからだに関する基礎的な知識について、私たちの人体や基本的な生活行動と関連させながら学びます。また、介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解し、介護実践に適切に活用できる能力を育てます。	
評価の観点	① 関心・意欲・態度	○積極的に授業、実習に取り組む姿勢をもっている。 ○提出物を期限内に出している。
	② 思考・判断	○基礎的・基本的な知識を活用し、自分の健康管理について、日常生活を通して、考えることができる。 ○人体の健康状態、発達状態、加齢状態、病態の進行状況を観察し、対象者を適切に判断した上で、援助の方法を考えることができる。
	③ 技能・表現	○人体の構造について、各部位の位置関係を理解し、図表化することができる。
	④ 知識・理解	○人体の構造と機能について、各部位の名称および位置、はたらき等、理解している。
評価方法	学習状況観察、ワークシート・ノート、研究・発表・定期考査・単元テストの結果等で総合的に判断して評価します。	
学習の方法	○ 医療に関するドラマや番組、新聞記事などを、積極的に見るようにしましょう。学んでいることがよく出てくるので、予習・復習に役立ちます。 ○ 専門的な用語が多く出てくるので、その日学習した内容を自宅学習でもしっかりと復習して、確実に身に付けましょう。	

学期	項目	学習のねらい
1 学期	序章 「健康」とは何か	
	1 こころのしくみを理解する 1) 人間の欲求とは 2) 自己概念と尊厳 3) こころのしくみの基礎	○精神的、身体的、社会的な健康を理解します。 ○人は何を持って生活に快適さを感じるのか、どうして不安や心配を感じるのかなど、基本的欲求や社会的欲求などを理解します。 ○ 脳の機能や構造について、理解します。
	2 からだのしくみを理解する 1) からだのしくみ 2) からだの動き 3 身支度に関連したしくみ 1) 身支度のしくみ 2) 心身の機能低下が身支度に及ぼす影響 3) 変化の気づきと対応	○人間のからだの解剖や生理的機能、からだの動きのメカニズムを理解します。 ○身支度を整えるということは、人が人として、社会とかかわる上での重要な自己表現です。身支度に関連した心とからだの基本を学びます。
	4 移動に関連したしくみ 1) 移動のしくみ 2) 心身の機能低下が移動に及ぼす影響 3) 変化の気づきと対応	○人が移動することの必要性やその効果、移動するためのからだのしくみと移動能力が低下する原因を学びます。また、対応について理解します。

<p>2学期</p>	<p>5 食事に関連したしくみ 1) 食事のしくみ 2) 心身の機能低下が食事に及ぼす影響 3) 変化の気づきと対応</p> <p>6 入浴・清潔保持に関連したしくみ 1) 入浴・清潔保持のしくみ 2) 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響 3) 変化の気づきと対応</p> <p>7 排泄に関連したしくみ 1) 排泄のしくみ 2) 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 3) 変化の気づきと対応</p>	<p>○食事のしくみ・あり方や、心身の機能低下との関係、観察事項などを具体的に学びます。</p> <p>○「生活する人」の側から、入浴・清潔について考え、一人ひとりの心身の状況に応じた最も望ましい方法と提供される支援技術の根拠について、理解します。</p> <p>○尊厳を守り、異常に気づくために必要な排泄の正常と異常について理解します。</p>
<p>3学期</p>	<p>8 睡眠に関連したしくみ 1) 睡眠のしくみ 2) 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響 3) 変化の気づきと対応</p> <p>9 死にゆく人に関連したしくみ 1) 「死」を理解する 2) 終末期から「死」までの変化と特徴 3) 「死」に対するこころの理解 4) 医療職との連携ポイント</p>	<p>○利用者がよい眠りをとることができるように支援するための基礎について学びます。</p> <p>○終末期から死に至るまでの心身の機能変化を踏まえ、死にゆく人とその家族を支援するために、心理面での理解を深めます。</p>

⑥教員数、科目別担当教員名

	氏名		担当科目	資格・免許
必置教員 (教務に関する主任者：◎印 領域「介護」「こころとからだのしくみ」に1人以上必要な教員○印)	◎	濱砂 美穂子	社会福祉基礎／介護福祉基礎／コミュニケーション技術／生活支援技術／介護過程／介護総合演習／介護実習／こころとからだの理解／福祉情報活用	「福祉」教員免許
	○	幣島 幸子	社会福祉基礎／介護福祉基礎／コミュニケーション技術／生活支援技術／介護過程／介護総合演習／介護実習／こころとからだの理解／福祉情報活用	「福祉」教員免許 看護師
	○	澤野 なぎさ	社会福祉基礎／介護福祉基礎／コミュニケーション技術／生活支援技術／介護過程／介護総合演習／介護実習／こころとからだの理解／福祉情報活用	「福祉」教員免許
	○	齋田 圭一	社会福祉基礎／介護福祉基礎／コミュニケーション技術／生活支援技術／介護過程／介護総合演習／介護実習／こころとからだの理解／福祉情報活用	「福祉」教員免許 介護福祉士
その他の教員		原 弘毅	現代社会	「公民」教員免許
		津村 美穂	家庭基礎	「家庭」教員免許

⑦使用する教材

【中央法規出版株式会社】

- 新・介護福祉士養成講座1 「人間の理解」
- 新・介護福祉士養成講座2 「社会と制度の理解」
- 新・介護福祉士養成講座3 「介護の基本Ⅰ」
- 新・介護福祉士養成講座4 「介護の基本Ⅱ」
- 新・介護福祉士養成講座5 「コミュニケーション技術」
- 新・介護福祉士養成講座6 「生活支援技術Ⅰ」
- 新・介護福祉士養成講座7 「生活支援技術Ⅱ」
- 新・介護福祉士養成講座8 「生活支援技術Ⅲ」
- 新・介護福祉士養成講座9 「介護過程」
- 新・介護福祉士養成講座10 「介護総合演習・介護実習」
- 新・介護福祉士養成講座11 「発達と老化の理解」
- 新・介護福祉士養成講座12 「認知症の理解」
- 新・介護福祉士養成講座13 「障害の理解」
- 新・介護福祉士養成講座14 「こころとからだのしくみ」

⑧介護実習施設等の名称、住所及び事業内容

施設名	種別	所在地
河鹿の里	特別養護老人ホーム	日南市北郷町大字大藤甲3186番地
くろしおの里	特別養護老人ホーム	日南市南郷町大字中村乙7051番地
ゆうゆうの森	特別養護老人ホーム	串間市大字串間1094
寿楽園	特別養護老人ホーム	串間市北方1599番地
昭寿園	特別養護老人ホーム	日南市大字風田3895
はまゆうの里	特別養護老人ホーム	宮崎県日南市大字楠原1840番地
しあわせの里	介護老人保健施設	宮崎県南那珂郡北郷町大字大藤甲3589-1
ハイム苑	介護老人保健施設	宮崎県日南市中央通1丁目10番15
長寿の里	介護老人保健施設	宮崎県串間市大字奈留5298-3
恵老園	養護老人ホーム	日南市南郷町大字津屋野2458
和幸園	養護老人ホーム	日南市大字平山86
北郷荘	身体障害者療護施設	日南市北郷町大字大藤甲3655
寿楽園デイサービスセンター	通所介護	串間市北方鎌ヶ迫1599
幸寿園	養護老人ホーム	串間市大字串間1094
くろしおの里 (ホームヘルプサービスセンター)	訪問介護	日南市南郷町大字中村乙7051番地
グループホームくろしお	特別養護老人ホーム	日南市南郷町大字中村乙7051番地
くろしおの里 (デイサービスセンター)	通所介護	日南市南郷町大字中村乙7051番地
河鹿の里 (短期入所生活介護事業所)	特別養護老人ホーム	日南市北郷町大字大藤3186番地
河鹿の里 (通所介護事業所)	通所介護	日南市北郷町大字大藤3186番地
河鹿の里 (訪問介護事業所)	訪問介護	日南市北郷町大字大藤甲3186番地
河鹿の里 (居宅介護支援事業所)	居宅介護	日南市北郷町大字大藤
北郷町地域包括支援センター	訪問介護	日南市北郷町大字大藤
長寿の里 (デイサービスセンター)	通所介護	串間市大字奈留5289-3
はまゆうの里 (訪問介護サービス)	訪問介護	日南市大字楠原1840

はまゆうの里 (デイサービス)	通所介護	日南市大字楠原1840
ケアハウスはまゆう	特別養護老人ホーム	日南市大字楠原1840
ハイム苑 (通所リハビリテーション)	介護老人保健施設	日南市中央通1丁目10番15
昭寿園 (通所介護事業)	通所介護	日南市大字風田3895



⑧介護実習の内容及び特徴

介護実習要項

1. 実習の意義

介護の実体験をとおして、3つの領域「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「介護」の学習内容を統合させて、介護とは何かを理解し、実践する基礎的能力を修得する。

2. 実習の目標

介護に関する体験的な学習を多様な介護の場において行い、知識と技術を統合させ、介護従事者としての役割を理解し、適切かつ安全な介護ができる実践的な能力と態度を身につける。

実習施設・事業等（Ⅰ）

利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践、他職種協働の実践、介護技術の確認等を行うことに重点を置く。

様々な生活の場における個々の生活リズムや個性を理解した上で、個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じたチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。

実習施設・事業等（Ⅱ）

一つの施設・事業等において一定期間以上継続して実習を行う中で、利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった一連の介護過程のすべてを継続的に実践することに重点を置く。

利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他学科で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。

3. 介護実習の内容・特徴

(1) 介護実習の種類

介護実習Ⅰ

- ①見学実習（1年生・・・5日間）
- ②介護実習（1年生・・・10日間）
（2年生前期・・・12日間）
（2年生後期・・・10日間）

介護実習Ⅱ

- ③介護実習（3年生前期・・・12日間）
（3年生後期・・・10日間）

(2) 実習時間

1日の実習時間は原則として、午前8時30分から午後4時30分までの8時間（休憩60分を含む）を行う。介護実習1日あたりのカウントは8単位時間（1～8時限）とする。

(3) 実習内容

	項目	実習内容
1年生	<p>(1) 多様な介護の場における実習</p> <p>ア、介護技術の実践 イ、コミュニケーションの実践 ウ、他職種協働及びチームケアの理解</p> <p>○8月に5日間の実習 ○1月に10日間の実習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な介護の場における実習を通して、利用者やその家族とコミュニケーションを図り、サービス利用者の状況を理解する。 ・食事介助・衣服の着脱・清潔・排泄の介護など基礎的・基本的な介護技術を実践する。 ・さまざまな暮らしの場における一人ひとりの利用者に応じた生活の支援の方法について理解する。 ・実習Ⅰの現場における介護実習を体験し、その分析、反省を行い次年度の実習へつなぐ。
2年生	<p>(1) 多様な介護の場における実習</p> <p>ア、介護技術の実践 イ、コミュニケーションの実践 ウ、他職種協働及びチームケアの理解</p> <p>○8月に12日間の実習 ○11月に10日間の実習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な介護の場における実習を通して、利用者やその家族とコミュニケーションを図り、サービス利用者の状況を理解する。 ・食事介助・衣服の着脱・清潔・排泄の介護など基礎的・基本的な介護技術を実践する。 ・さまざまな暮らしの場における一人ひとりの利用者に応じた生活の支援の方法について理解する。 ・実習Ⅰの現場における介護実習を体験し、その分析、反省を行い次年度の実習Ⅱへつなぐ。
3年生	<p>(2) 個別ケアのための継続した実習</p> <p>ア、個別的な介護技術の実践 イ、介護過程の実践</p> <p>○6月に10日間の実習 ○8月に12日間の実習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の高齢者や障害者などに対する介護も含めて、自立支援のための個別ケアを進めるために、基本的な介護技術を基に、サービス利用者の状況や状態、生活課題を把握する。 ・サービス利用者の自立生活を支援し、クオリティ・オブ・ライフを高めながら、一人一人に対応した介護が提供できるようにする。 ・サービス利用者の状態の変化に応じた継続的な介護の方法について実践できる能力を習得する。 ・自立支援のために、サービス利用者の心身の状況や生活の状況など幅広く観察し、生活上の課題を明確化し一連の介護過程を実践する。 ・サービス利用者の状態の変化に応じた継続的な介護の方法について実践できる能力を習得する。

実績情報

本校は平成21年度に開設した学校であり、卒業生はまだ出ていない。